

中学生の主張・作文が表彰されました

●中学生の主張大会

第45回立川市中学生の主張大会が11月3日、たましんRISURUホールで行われました。当日は3,165編の作品から選ばれた中学生が、日常生活において、家族や友人、社会との関わりの中で気付き、考えたことを発表しました。主な入賞者は次のとおりです。

▶市長賞=横田京之介(二中1年)▶議長賞=魚谷心遥(七中3年)、下尾幸輝(三中2年)▶教育長賞=岩田郁生(一中1年)、濱田詩(二中2年)▶中学生審査員賞=大畠あい(三中2年)▶中学校PTA会長賞=松本悠(一中3年)▶青少年問題協議会会長賞=高橋未羽(二中1年)、波田唯花(四中1年)、柳沢怜那(五中2年)、相川奈花(六中1年)、吉原百香(六中3年)、堀居礼佳(七中3年)、石井咲來(八中3年)、池亀沙羅(九中2年)

《敬称略》

問子ども育成課青少年係・内線1302



第45回中学生の主張大会
公園でのボール遊びについて

横田
京之介

僕の家の近くには、いくつかの公園があります。でも、どの公園にも「ボール遊び禁止」という看板があります。前は友達とサッカーボールをしたりして遊んでいました。でも最近は、それができなくなってしまいました。でも最近ある日、「ボール遊び禁止」のことを知らずに、友達とサッカーボールでバスの練習をしていたら、近くを通ったおじさんに、「これは、『ボール遊び禁止』だよ。」と注意されました。僕たちはすぐにやめましたが、その後ずっとモヤモヤした気持ちと一緒に、「じゃあどこでやればいいんだよ。」と少しイララした気持ちが残りました。

公園は、みんなの場所なのにどうしてボール遊びが禁止されてしまうのか僕はとても不思議に思います。公園はみんなが使える場所です。そのため、いろいろな人が気持ちよく使えるようにすることは大事だと思います。だからと言ってボール遊びを全部「禁止」にするのは少し納得できません。

確かにボールが飛んで人に当たったり、道

路に出でてしまったりすると危ないです。でも、それなら「どうすれば安全に遊べるか」を考えることが大事だと思います。いきなり「禁止」にするのではなく、ルールを作り、「工夫をしたりすれば、みんなが気持ちよく使える公園になるはずです。例えば、柔らかいボールだけを使うようにしたり、ボールが外に出ないように、高めのネットやフェンスをつけたりする方法があります。他にも、時間をきめて、「午後3時から5時まではボール遊びオーケー」や、曜日を決めて、「水曜日と日曜日はボールを使つてもいい」などを決めるなどのルールを作るものいいと思います。そうすれば静かになります。時間が過ぎたい人と、ボールで遊びたい人が、どちらの人もいい気持ちで公園を使用することができます。時間が曜日を分けて使えるようになり、どちらの人もいい気持ちで公園を使用することができます。

そして最近は外で遊ぶ子供が減っていると言っていますが、その原因は遊び場所が少なく、公園の遊具なども少なかつたり、

公園遊びができないのはすぐ悲しいです。公園は子供や大人、お年寄りも使う場所。だからこそ、大人を中心で考えるのではなく、

ボール遊び禁止のように、自由に遊べなくなってきているからだと思います。公園で遊ぶ時間は僕にとって大切な時間です。だから、サッカーやキャッチボールなどのボール遊びができるのはすぐ悲しいです。

僕は友達と外で遊ぶのが大好きです。ゲームや、スマホも楽しいけれど、公園で遊ぶ時間は僕にとって大切な時間です。だから、サッカーやキャッチボールなどのボール遊びができるのはすぐ悲しいです。

僕は友達と外で遊ぶのが大好きです。ゲームや、スマホも楽しいけれど、公園で遊ぶ時間は僕にとって大切な時間です。だから、サッカーやキャッチボールなどのボール遊びができるのはすぐ悲しいです。

僕は友達と外で遊ぶのが大好きです。ゲームや、スマホも楽しいけれど、公園で遊ぶ時間は僕にとって大切な時間です。だから、サッカーやキャッチボールなどのボール遊びができるのはすぐ悲しいです。

僕は友達と外で遊ぶのが大好きです。ゲームや、スマホも楽しいけれど、公園で遊ぶ時間は僕にとって大切な時間です。だから、サッカーやキャッチボールなどのボール遊びができるのはすぐ悲しいです。

公園も多様性の時代です 中学生のひと言から考える

中学生の主張大会には、思わずうなるものや「そう来たか」と膝を打つものなど、この街の未来を感じさせる意見が並びました。

市長賞の作文が投げかけた「公園でのボール遊び」は、私自身も以前からモヤモヤしていたテーマです。今は多様性の時代。ならば公園も多様であっていい。立地や規模に応じて、ボールで遊べる公園、工夫が必要な公園があってよいはずです。ルールを整理し、見える形で示すことが行政の役割。

中学生のまっすぐな提案に背中を押され、「次なる課題は」と、またモヤモヤし始めています。

立川市長
酒井 大史



「全国中学生人権作文」表彰

中学生が人権尊重の大切さを考え、豊かな人権感覚を身に付けることを目的に行われる全国中学生人権作文コンテストで、市内中学生が次のとおり入賞し、立川地区人権擁護委員会による表彰式が行われました。

▶東京都大会作文委員会賞(立川市長賞・立川地区人権擁護委員会最優秀賞)=今村冴(八中2年)▶東京都大会作文委員会賞(立川地区人権擁護委員会優秀賞)=三宅里穂(一中2年)、加瀬光里(七中2年)▶多摩西人権擁護委員協議会長賞(立川地区人権擁護委員会入選)=俊長杏那(二中2年)、石川來夢(二中2年)、荒井大輝(二中2年)、横山春妃(三中2年)、佐原夕海(五中2年)▶立川地区人権擁護委員会入選=河島一心(二中2年)、渡邊湊太(三中2年)、山本恵愛(七中2年)、その他1名

《敬称略・各賞学校順》

問くらし相談課市民相談係(528)4319



「税についての作文」「税の標語」表彰

次代を担う中学生の皆さんに税への関心と理解を深めてもらうことを目的としているコンクールで、市内の中学生が次のとおり受賞しました。

■税についての作文

市長賞=岩久祐理依(二中3年)
教育長賞=長谷川七瀬(三中3年)

■税の標語=市長賞

林優花(二中1年)

「税を知る それがはじめの一歩 税の道 自分のために みんなのために」
《敬称略》

問課税課諸税係・内線1201